

# 社団法人倫理研究所 平成22年度年次報告

2009~2010

ANNUAL REPORT

## ご挨拶

(社)倫理研究所の平成 22 年度の諸事業をまとめた『年次報告』を作成いたしました。年次報告は行政機関の作成する『白書』に該当し、事業内容説明と数値データ(図表含む)の開示に相当するものです。通常総会で報告させていただいた平成 22 年度事業報告書を、写真や図表を多用しながら、よりわかりやすく見やすくという方針でまとめました。

平成 22 年度も文部科学省および地域行政と連携を図り、より「公益性」の高い社会教育団体を目指し、個人および法人の会員組織を両翼として「連帯を強化し、自他の救済力を高める」を基本方針とした諸事業を展開しました。

普及部門の生涯局では、全国 189 の家庭倫理の会にて「おはよう倫理塾」をはじめ各種セミナーを通じて、普及・教育活動を展開し、地域教育に貢献できる人材の育成に努めました。法人局では 10 万社達成に向け、引き続き「日本創生」をスローガンに掲げて活力に満ちた実践と普及活動を推進。年度末までに倫理法人会の拠点数は 729 カ所、会員企業数は 63,000 社に達しました。

研究部門では「倫理文化学」の構築を目指し、所内の研究体制の充実および新たな組織体制(研究センター)に向けての準備を進め、所外研究者・専門家との交流をいっそう促進しました。

教育部門では富士教育センターの恵まれた自然環境と施設を活用し、資格セミナーおよび企業セミナー共に、ほぼ予定通りの受講者を得ました。

出版部門では、『道は近きにあり』『ありがとうと伝えたい』『幸福へのブレイクスルー』等のほか、PHP 研究所より『生きる道』(丸山竹秋著)、倫理文化研究叢書の第一冊目として『純粋倫理と科学』を発刊しました。また、標語カレンダーは過去最高の発行部数を記録しました。

『平成 22 年度年次報告』を通し、倫理運動に対する一層のご理解・ご支援を念じてやみません。

# 社団法人倫理研究所

## 平成22年度年次報告

(自 平成21年9月1日)  
(至 平成22年8月31日)

## ANNUAL REPORT

### 平成22年度 活動トピックス ————— 2

「まなびピア埼玉 2009」協賛・出展／第5回しきなみ子ども短歌コンクール表彰式／第13回地球倫理推進賞贈呈式／第28回地球倫理フォーラム（龍野・安城）／地球倫理の森創成30万本達成

### 「家庭倫理の会」活動の展開 ————— 6

### 「倫理法人会」活動の展開 ————— 10

### 文化活動の推進 ————— 14

### 国際交流の推進 ————— 15

### 教育・研修 ————— 16

### 出版活動 ————— 17

### 研究の充実 ————— 18

### 倫理研究所の組織概要と沿革 ————— 20

# 平成 22 年度 活動トピックス

社団法人倫理研究所は、文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体として、本年度も様々な生涯学習活動を展開しました。通算 21 回目を迎えた「全国生涯学習フェスティバル（まなびピア埼玉 2009）」に参加したほか、文部科学省の後援を受けて、「第5回しなみ子ども短歌コンクール」「第13回地球倫理推進賞贈呈式」「第28回地球倫理フォーラム」を実施しました。



## 「まなびピア埼玉 2009」協賛・出展 (主催：文部科学省・埼玉県)

「第21回全国生涯学習フェスティバル（まなびピア埼玉 2009）」が、さいたまスーパーアリーナを主会場に、平成 21 年 10 月 30 日～11 月 3 日まで開催されました。倫理研究所は生涯学習見本市会場に「こども倫理塾ワクワ克蘭ド」を出展し、期間中 2,500 名が来場。「まなび」「あそび」「しつけ」をコンセプトに、「埼玉県クイズ」「キッズ短歌」「漢字2画ゲーム」など1回 15 分程度の多彩なカリキュラムを実施しました。屋内体験教室では、Tシャツに文字や絵を自由に書いていく「Tシャツ書道」を行ない、800 名が書道の楽しさに触れました。10 月 31 日には、屋外ステージに関東ソーラン隊「舞人（まいんちゅ）」が出演。家庭倫理の会の青少年 37 名が、500 名を超える観客の前で力強い踊りを披露しました。協賛事業として、10 月 6 日～11 月 25 日まで、川口市・草加市・さいたま市など県内 20 カ所の会場で「子育てセミナー」を実施。出席者は、子を健やかに導く親の姿勢について学びを深めました。全会場の出席者は 312 名でした。





## 第5回しきなみ子ども短歌コンクール 表彰式(後援:文部科学省)

全国から、63,704名の応募があった「第5回しきなみ子ども短歌コンクール表彰式」が、平成22年2月28日、東京・港区のニッショーホールで行なわれ、742名が出席しました。4名の特別選考委員が、下記のように挨拶しました。

文部科学省生涯学習政策局社会教育官・服部英二氏「実際に見たこと、体験したこと、驚いたことが、三十一文字の中に、本当にうまく詠われているな、と感心しました」。共立女子大学名誉教授・木村治美氏「子供たちが歌を作り続けることで、日本人としての心が豊かになればと願っています」。現代歌人協会会員・中島宝城氏「最優秀賞に選ばれた三首は、心の中が素直に出ています。三首ともに小さい生き物たちを詠み、生き物との心の交流、共鳴があります」。

作家・神渡良平氏「改めて、子供たちの感性のすばらしさに感動しました。選考しながら笑い、驚き、涙し、自分の子供時代を思い出しました」。

「最優秀賞」3名及び「特選」30名には、丸山敏秋理事長から表彰状と記念品を贈呈。「最優秀賞」3名は、川端達夫文部科学大臣に代わり服部英二氏から「文部科学大臣賞」も授与されました。

表彰の後、最優秀賞三首が「星と森披講学習会」によって披講。男性は狩衣、女性は打掛け衣装の16名による優雅な調べが会場に流れました。

### 【最優秀・文部科学大臣賞受賞作品】

#### 高学年の部

ぼくが手をはなせないこと知っている竹馬の先にとまったとんぼ  
(山口陸／徳島・小学5年生)

#### 中学年の部

ちかよるとあいさつするよ手をあげてピースもするようちのザリガニ  
(麦田友佳／熊本・小学3年生)

#### 低学年の部

ひるなのに夕がたみたいせみたちもなくのをやめたかいき日食  
(橋本宗汰／福岡・小学2年生)



丸山理事長のインタビューでは笑顔が溢れた



左から山口君、麦田さん、橋本君



披講では平安時代にタイムスリップしたような、雅な空気を演出



南研子代表(左)と梶さち子会長(右)



るアマゾンの環境保全や教育支援の取組みの将来性に大きな期待が寄せられました。

平成 22 年 3 月 28 日、倫理文化センターにて「第 13 回地球倫理推進賞贈呈式」を開催し、270 名が参加。丸山敏秋理事長から表彰状と副賞 100 万円を贈呈。文部科学省生涯学習政策局社会教育課長の神代浩氏が挨拶し、川端達夫文部科学大臣に代わり文部科学大臣賞を授与しました。最後に、各受賞団体が活動報告を行ないました。

## 第 28 回地球倫理フォーラム in 龍野・安城(後援: 文部科学省)

平成 22 年 5 月 16 日、「第 28 回地球倫理フォーラム」が兵庫県たつの市赤とんぼ文化大ホールで開催され、満席となる 1,101 名が来場しました。5 月 23 日には、愛知県安城市文化センターで同フォーラムが開催され、地元の教育関係者など 613 名が来場しました。

第 1 部は「新学習指導要領とこれからの家庭教育支援」と題して、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長の高口努氏が講演しました。高口氏は、国際比較の中での日本の児童の学力の位置づけ、近年の家庭教育力低下の背景について各データを提供しつつわかりやすく解説。子供たちの生きる力を育むために、新学習指導要領に基づいた、公教育と家庭教育一体となった教育への取り組みの大切さを訴えました。

第 2 部で丸山敏秋理事長が「教育力を高める一家庭に取り戻したいこと」と題して講演。1. 家庭教育に関する基本的なこと 2. 子供は不思議な存在 3. 家庭に取り戻したい 3 項目について時にユーモアを交えて説き明かしました。

子供の成長にふさわしく「家庭の空気をいかに明るく健康的にかもし出せるか」が一番大事と語り、そのポイントを細部にわたって提案。親子関係より夫婦関係の改善を先にし、両親の親愛という子供の心にととの最大の栄養を与えてほしいと結びました。



## 第 13 回地球倫理推進賞贈呈式 (後援: 文部科学省・産経新聞社・全国民間ラジオ局 37 社)

『産経新聞』、インターネットの全国行政 NPO 助成金情報、倫理研究所刊行物等を通して公募し、全国より 45 件(国内活動部門 29 件・国際活動部門 16 件)の応募があり、国内活動部門に「NPO グリーンウッド自然体験教育センター」(梶さち子会長)、国際活動部門に「熱帯森林保護団体」(南研子代表)が決定しました。

「NPO グリーンウッド自然体験教育センター」は、<sup>やすおか</sup>長野県泰阜村にて小学 3 年生から中学生を対象に、山村留学事業を展開しています。選考では、厳しくとも豊かな自然と共存する技や知恵、日本の伝統文化を伝えてきた 23 年間の良質な教育実践が高く評価されました。

「熱帯森林保護団体」は、アマゾンの熱帯林と先住民の保護を目的に設立されました。識字教育事業のほか、7 集落に学校を建設し、インディオの子供たち約 500 名を支援しています。選考では、20 年に亘



## 地球倫理の森創成 30 万本達成

平成 11 年より始めた中国・内蒙古クブチ沙漠での「地球倫理の森創成」事業は、今年度第 45 ～ 47 次の 3 隊ほか現地メンバーによる集中植林によって、合計 5,660 本の苗木を植林。通算の植林本数は、約 308,000 本となりました。

第 45 次隊（4 月 28 日～5 月 5 日）は日中合同青年隊。日本から 68 名、中国から 9 大学 81 名の学生が参加し、過去最多の 149 名の青年がクブチ沙漠に集結しました。2 日間の植林活動で植えたポプラの苗木は 2,800 本。植林後は、グループに分かれて環境問題や日中友好について活発な意見交換を交わすなど、両国青年の絆を深めました。

第 46 次隊（6 月 6 日～12 日）には 24 名が参加。さらに、環境意識の向上を図ることを目的に、大学生が中心となって活動を展開する中国の NGO 団体「自然景観環境保護協会」から 3 名のスタッフが参加。活動初日の朝には恵みの雨が降り、午後からの植林作業となりました。剪定や防砂作業にも取り組みながら、500 本を植林しました。

第 47 次隊（8 月 1 日～7 日）には 46 名が参加。連日 38 度を超える猛暑に見舞われましたが、8 月 2 日に降った雨は気温を下げ、砂に潤いをもたらしました。植林初日の天気も曇りで、若者と熟年隊員の見事なチームワークにより 610 本の植林を達成しました。





# 「家庭倫理の会」活動の展開

「家庭をよくし、地域をよくし、日本をよくする」という目的のもと、地域密着、地域貢献型の活動を組織的に展開しました。「おはよう倫理塾」「倫理の集い」等を通して、愛和の家庭づくり、地域貢献のできる人材育成に努めました。



家庭向け月刊誌『新世』

## 地域における生涯学習活動

### 家庭倫理講演会 (後援：文部科学省)

家庭教育力の向上こそ現代の最重要課題であると捉え、「ありがとうの一言が家庭を変える」をメインテーマに開催。家庭の意義や夫婦・親子関係を考え直すとともに、家庭における感謝の心の重要性と具体的な実践を提言しました。

| 開催会場   | 参加延べ人数                       |
|--------|------------------------------|
| 181 力所 | 65,409 名<br>(うち未会員 26,019 名) |

### おはよう倫理塾

家庭倫理の会の会員を対象に、早朝5時から50分間、さわやかな笑顔に囲まれて、老若男女が純粋倫理の学習と実践に励みました。

| 開催会場   | 参加延べ人数      |
|--------|-------------|
| 390 力所 | 1,970,331 名 |

### こども倫理塾

小学生を対象に、「まなび」「あそび」「しつけ」を三本柱として、挨拶や後始末の練習など、倫理を基本とした生活習慣の体得を図りました。

| 開催回数    |
|---------|
| 1,051 回 |

| 参加延べ人数   |
|----------|
| 14,733 名 |





## 地域に役立つ活動

### 子育てセミナー

各家庭倫理の会が、乳幼児期や小・中学生の子供を持つ親を対象に実施しました。講師は地元の参事・副参事、生活倫理相談士があたります。純粋倫理に基づく、子供の年代ごとに対象者を編成したセミナーが、若い母親や父親に好評を博しました。



### 「地球倫理」実践活動

平成 22 年 4 月 28 日～5 月 5 日、中国内モンゴル恩格貝のクブチ沙漠で、沙漠緑化の植林活動を行ないました。

日本の青年隊員は中国の学生達との交流について、「非常に友好的で、一所懸命に植林に取り組む姿勢に感動した」「日本の伝統文化についてもっと学び、他国の人に話せるようになりたい」「中国のことを深く知りたい」などの感想が寄せられました。

### 全国一斉清掃（後援：環境省・文部科学省）

6 月 5 日の「世界環境デー」に呼応し、6 月 1 日から 28 日にかけて都道府県や教育委員会と共催し、全国主要都市の公共施設（駅周辺、国道、河川敷など）で大規模な清掃を実施しました。また、毎月第 2 日曜日を「全国一斉清掃」とし、地域の美化・浄化に取り組みました。

| 開催会場   | 参加延べ人数   |
|--------|----------|
| 530 力所 | 13,911 名 |



## 青年活動

### 「まなびピア埼玉 2009」

#### 青年体験研修

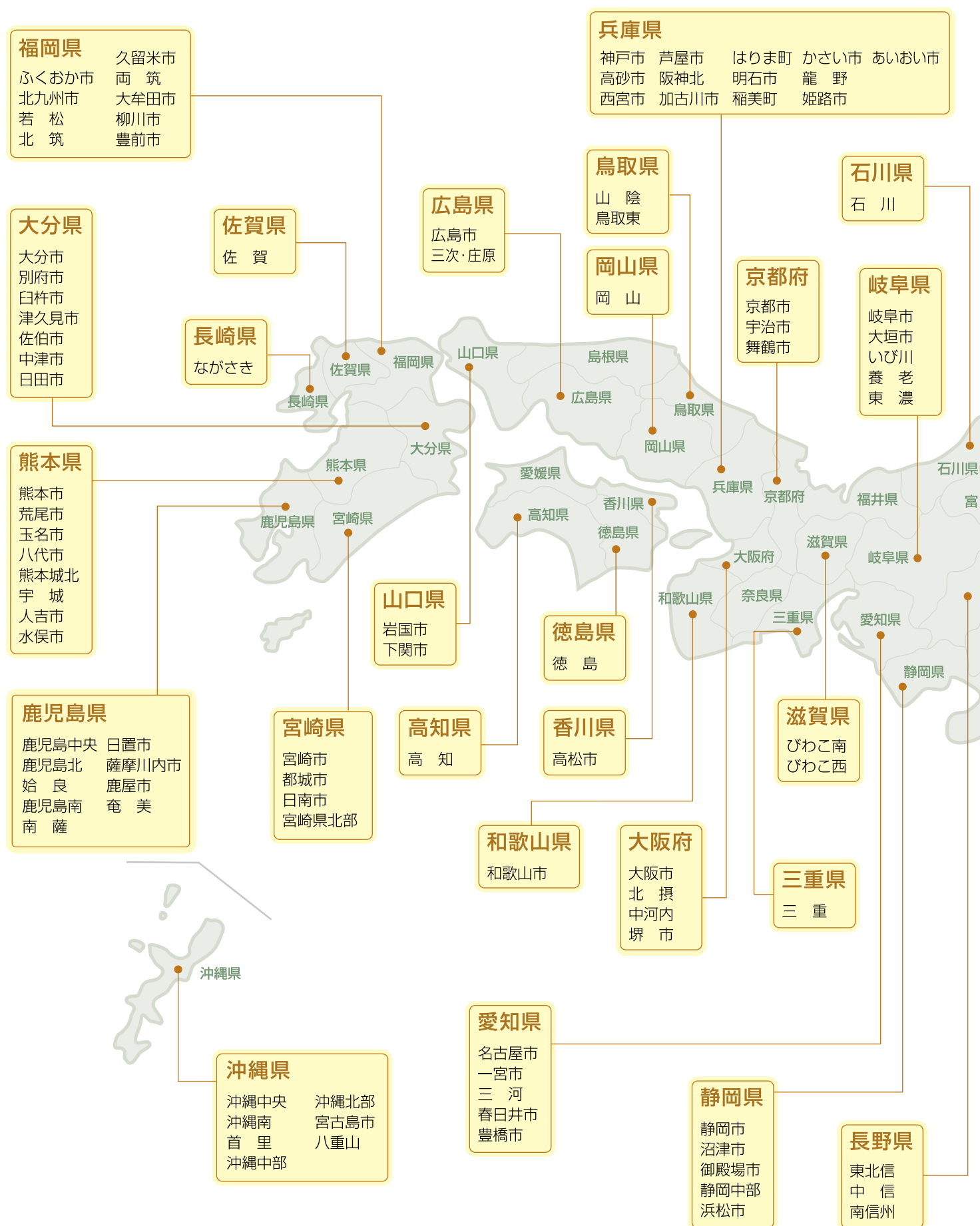
平成 21 年 10 月 31 日～11 月 1 日、「まなびピア埼玉 2009」の見本市会場における倫理研究所の出展に際し、スタッフとして企画・運営に携わり、その体験を通して、「考える力」「行動する力」を向上させることをねらいとした体験研修を実施しました。終了後、「職場で活かせる体験ができました」「他の青年と切磋琢磨し、物事に対して新たな見方ができるようになりました」等の感想が寄せられました。

### 青年クリエイティブセミナー

平成 22 年 5 月 2 日～4 日、富士高原研修所で開催し、35 名が参加しました。「生きる力」を引き出すことを主眼に、セブナクトの実践、課題の発見・解決力のレベルアップ等を目指しました。

## 「家庭倫理の会」分布図

全国189カ所の家庭倫理の会で生涯学習の活動を展開しています。  
(平成22年8月31日現在)







家庭倫理の会



# 「倫理法人会」活動の展開

「日本創生」の実現に向け、全国 60,000 社の会員企業が、10 万社達成に向けて力強く踏み出し 4 年目を迎えました。平成 22 年度は、未普及地域の開発、単位倫理法人会の活動内容の見直しと充実を図り、活力に満ちた実践・普及活動を推進しました。また、昨年発足した「倫理 17000 倶楽部」の拡充を図り、地域に貢献する企業づくりを目指しました。

## 倫理経営講演会

平成 22 年 1 月～6 月、メインテーマに「日本創生の心」（サブテーマ「得るは捨つるにあり」または「希望は心の太陽である」）を掲げ、全国主要都市にて開催。倫理経営の重要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。



| 開催会場   | 参加延べ人数   |
|--------|----------|
| 620 力所 | 76,187 名 |



隔月刊誌『倫理ネットワーク』



## 経営者モーニングセミナー

純粋倫理を学び、実践する場として、毎週 1 回、早朝に全国約 680 会場で開催。朝型の生活習慣を体得すると共に、各界で活躍する講師の貴重な体験談などを交えて、企業を健全な繁栄へと導く「倫理経営」についての学びを深めます。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれています。

| 開催回数     | 参加社数      | 参加延べ人数    |
|----------|-----------|-----------|
| 31,599 回 | 634,752 社 | 744,661 名 |

## 職場朝礼の推進

社員の能力向上と企業の繁栄に向けて、活力あふれる職場朝礼を推進しています。その浸透のために「朝礼研修」に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。各地で「活力朝礼コンクール」などが開催され、テレビの情報番組に取り上げられた大会もありました。職場朝礼用のテキスト『職場の教養』（非売品）は、毎月 160 万部発行し、会員企業に提供しています。



朝礼用冊子『職場の教養』



## 後継者倫理塾

千葉・長野・埼玉・新潟・東京・栃木・石川・愛知・沖縄の1都8県で実施。年間8～12回開塾し、総勢140名が参加しました。企業の未来を担う後継者の育成を目的として、純粋倫理の学習と実践を通し、よりよい生活習慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた青年経営者の養成に力を注いでいます。



## 経営者の集い

会員企業に限らず、広く倫理経営を伝えていくため、各倫理法人会で定期的に開催しました。「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、初めて出席する経営者を対象に、会員企業による事業体験報告を通して、純粋倫理についての学びを深める勉強会を実施しました。

## 幹部研修

純粋倫理の深い理解力と実践力の強化のために、『幹部研修テキストV』（サブテキストとして『丸山敏雄伝』を使用）に基づいて、定期的に研修会を実施しました。

| 開催回数    | 参加延べ人数   |
|---------|----------|
| 1,745 回 | 29,089 名 |

| 開催回数    | 参加延べ人数   |
|---------|----------|
| 5,726 回 | 43,829 名 |

## 法人レクチャー会

自らの倫理実践による事業体験を語り、倫理経営の醍醐味を伝える法人レクチャーを対象に、平成21年9月に研修会を実施（出席者524名）。「経営者の集い」、「経営者モーニングセミナー」における体験発表者としての話力向上に努めました。



## 倫理経営インストラクター会

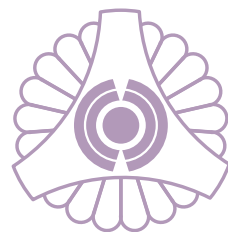
純粋倫理の理解と倫理指導力の向上を図るため、平成22年1月に開催しました（出席者211名）。今年度は「倫理経営上級インストラクター」9名、「倫理経営インストラクター」20名が新たに認定されました。

## 倫理ライセンス「倫理17000」

地域社会に貢献する企業作りと、倫理経営を顕著に推進している企業の証として、新たに12の会員企業に倫理ライセンス「倫理17000」認定証を授与。同ライセンス認定企業は計153社となりました。







|            |     |     |         |         |       |      |       |
|------------|-----|-----|---------|---------|-------|------|-------|
| <b>埼玉県</b> | 羽生市 | 草加市 | 戸田市     | さいたま市桜  | 志木市   | 飯能市  | 本庄市   |
|            | 久喜市 | 上尾市 | 大宮      | さいたま市見沼 | 川越市   | 坂戸市  | 深谷市   |
|            | 古河  | 鴻巣市 | さいたま市南  | さいたま市与野 | 所沢市   | 鶴ヶ島市 | 寄居・秩父 |
|            | 蓮田市 | 桶川市 | 岩槻      | さいたま市緑  | 狭山市   | 比企   |       |
|            | 加須市 | 北本市 | さいたま新都心 | 新座市     | 入間市   | 日高市  |       |
|            | 幸手市 | 越谷市 | さいたま市浦和 | 朝霞市     | 川越市中央 | 熊谷市  |       |
|            | 東埼玉 | 三郷市 | さいたま中央  | 富士見・三芳  | 東松山市  | 行田市  |       |

**群馬県**  
太田市  
桐生市  
館林市  
太田かなやま  
みどり市  
邑楽郡  
前橋市  
伊勢崎市  
渋川市  
沼田市  
前橋中央  
高崎市  
藤岡市  
富岡市  
玉村町  
安中市  
吾妻

**新潟県**  
佐渡市  
三条市  
新潟市  
新潟東  
新潟南  
新潟田  
長岡市  
長岡南  
上越市  
三条南  
長岡西  
魚沼  
柏崎市  
十日町市  
小千谷市  
見附市  
新潟中央  
白根・加茂  
妙高市

**山形県**  
山形市  
米沢市  
天童市  
寒河江市  
山形市蔵王  
酒田市  
鶴岡市  
上山市  
長井市  
南陽市  
新庄最上

**北海道**  
札幌東  
札幌市  
旭川市  
函館市  
帯広市  
札幌中央  
小樽市  
札幌北  
札幌西  
北斗市  
札幌白石  
札幌手稲  
札幌豊平

**青森県**  
八戸市  
青森市  
十和田市  
二戸  
弘前市  
三沢市  
五所川原市  
黒石市  
八戸市中央  
むつ市  
青森市中央

**岩手県**  
盛岡市  
花巻市  
奥州市  
一関市  
北上市  
久慈市  
釜石市  
宮古市  
けせん  
遠野市  
盛岡みなみ

**秋田県**  
秋田市  
大曲  
横手市  
秋田北  
由利本荘  
湯沢市  
能代市  
大館市  
秋田山王  
仙北市

**福島県**  
郡山市  
白河市  
福島市  
会津若松市  
須賀川市  
郡山中央  
喜多方市  
相双

**栃木県**  
宇都宮市  
小山市  
足利市  
佐野市  
栃木市  
下野市  
宇都宮市北  
はが野  
鹿沼市  
宇都宮西  
宇都宮中央  
日光市  
那須野ヶ原  
さくら  
那須野ヶ原中央  
宇都宮東

**茨城県**  
水戸市  
ひたちなか市  
鹿行  
潮来  
常陸太田  
笠間市  
水戸中央  
下妻市  
坂東市  
常総市  
筑西市  
結城市  
土浦市  
龍ヶ崎  
つくば市  
常総みなみ  
石岡市  
牛久市  
つくば中央

**宮城県**  
仙台中央  
石巻市  
仙南  
登米市  
大崎  
多賀城市  
気仙沼市  
仙台泉  
仙台若林  
仙台宮城野  
仙台太白  
仙台青葉  
さくら  
くりはら  
仙台広瀬  
仙台東  
白石蔵王  
仙台はせくら

**東京都**  
江戸川区  
葛飾区  
江戸川区東  
江東区  
墨田区  
墨田区中央  
江東区西  
足立区  
足立区西  
足立区北  
文京区  
上野  
浅草  
後楽園  
荒川区  
湯島  
北区  
豊島区  
巣鴨  
板橋区  
練馬区  
板橋区中央  
中央区  
中央区西  
日本橋  
港区  
品川区  
大田区  
赤坂  
千代田区  
九段  
渋谷区  
渋谷区中央  
新宿区  
新宿区四谷  
新宿区中央  
世田谷区  
杉並区東  
杉並区西  
中野区  
目黒区  
世田谷区玉川  
武蔵野市  
三鷹市  
東村山市  
東大和市  
府中市  
調布市  
小金井市  
国分寺市  
小平市  
立川市  
青梅市  
昭島市  
福生市  
八王子市  
八王子市中央  
町田市  
多摩市  
日野市  
あきる野市

**千葉県**  
流山市  
野田市  
柏市  
我孫子市  
柏市沼南  
柏市中央  
柏の葉  
松戸市  
鎌ヶ谷市  
松戸市中央  
白井市  
松戸市東  
船橋市  
市川市  
習志野市  
八千代市  
船橋市中央  
市川市中央  
船橋市北  
浦安市  
市川市南  
千葉市若葉区  
四街道市  
千葉市美浜区  
千葉市中央区  
千葉市花見川区  
千葉市緑区  
千葉市稲毛区  
成田市  
香取市  
佐倉市  
印西市  
銚子市  
八街市  
匝瑳市  
市原市中央  
市原市南  
茂原市  
いすみ市  
千原  
東金市  
館山市  
君津市  
木更津市  
袖ヶ浦市  
鴨川市

**神奈川県**  
川崎市  
川崎市高津区  
川崎市川崎区  
横浜市鶴見  
横浜市  
横浜市中区  
横浜市磯子区  
横浜戸塚泉栄  
横須賀市  
逗子葉山  
横浜市北  
横浜市青葉区  
相模原市  
相模原市橋本  
鎌倉市  
藤沢市  
茅ヶ崎市  
大和市  
平塚市  
小田原市  
秦野市  
厚木市  
伊勢原市  
海老名市

**山梨県**  
甲府市  
富士吉田市  
韮崎市  
笛吹市  
南アルプス市  
甲府南  
甲斐市  
つる

# 文化活動の推進

「しきなみ短歌会」は 313 支苑、「秋津書道会」は 378 支苑、しきなみ・秋津合計会員数 9,724 名となりました。「書道教室」や「初めての短歌教室」等を開催して広く一般に参加を呼びかけるなど、文化活動による新たな倫理普及の取組みは、着実に広がりを見せ実績を上げ始めています。



月刊誌『秋津書道』

## 秋津書道会

同会の特色である「自分の思いを書く」作品づくりに取り組むべく、会員を対象とした「第3回秋津賞・秋津こども賞」を開催しました。応募者数は「秋津賞」608 名、「秋津こども賞」63 名でした。

また、各地の家庭倫理の会が地域ごとに書道展・文化展を開催。「第3回秋津賞・秋津こども賞」の入賞作品を巡回し、広く好評を得ました。このほか、誰でも参加できる書道教室などを開催しました。

月刊誌『秋津書道』は、年間競書出品総数 31,323 名（前年比+ 52 名）となり、「秋津書道体験記」も好評です。



## しきなみ短歌会

一般を対象とした「初めての短歌教室」などを積極的に開催。入会者も着実に増加してきました。第 14 回「しきなみ賞・しきなみ新人賞」は、20 代・30 代の若い世代の清新な作品をはじめ、老いや介護を詠んだ感動的な作品が選出され注目されました（応募総数 563 名）。



月刊誌『しきなみ』



月刊誌『しきなみ』は、年間出詠者総数が 61,654 名（前年比+ 97 名）となり、全国の結社中、出詠者数で 9 年連続トップとなりました。



# 国際交流の推進

「アジア（世界）のタグポート」として海外組織の育成並びに倫理普及・交流を展開しました。「倫理研究所USA」「ブラジル倫理の会」「ハワイ倫理の会」では設立15周年、設立10周年、設立5周年を迎え、新たにブラジルに「アメリカナ支部」が発足されるなど、着実に活動を展開しています。

## 倫理研究所USA (南カリフォルニア倫理の会)

平成22年5月16日、「設立15周年記念式典・記念講演会」（テーマ「日本人が大切にしてきたもの」参加者182名）を開催。慶祝と交流を兼ねて、日本から14名が参加しました。その他、「モーニングミクサー」を毎月実施。隔月に「りりんセミナー」「ビジネスセミナー」を開催し、日系企業の経営者や社員に倫理経営・企業倫理の必要性をアピールしました。また、TJSラジオ放送番組「倫理の時間」（会員による『職場の教養』朗読）を継続。しきなみ短歌会と秋津書道会を定期的に関き、『羅府新報』の短歌欄に毎月掲載されました。



## ハワイ倫理の会

平成22年3月6日、「設立5周年記念式典と講演会」（テーマ「輝いて生きる」参加者60名）を開催。日本からは18名の祝賀団が参加しました。

毎週「土曜倫理の集い」を開催。平成20年3月に設立した「ハワイ留学里親制度」も着実に展開しています。平成21年10月8日、ホノルルで90年の伝統を誇る日系人会「木曜午餐会」において、倫理講演を行ないました。



## ニューヨーク倫理友の会

ニューヨーク事務所を拠点に、『NEWS LETTER』を毎月発行。また、日米交流等のイベントを通じて「倫理友の会」をアピールしています。平成21年11月に第9回年次総会を開催。さらにワシントンDCさくら協会主催の講演会で丸山理事長が講演。平成22年6月に「春のランチョン」を開催しました。

## ブラジル倫理の会

平成22年6月13日、「設立10周年記念式典・講演会」（丸山理事長講演：テーマ「希望は心の太陽」）を開催。日本からは16名の会員が参加しました。毎週土曜日にセントロ、聖北支部で「朝の集い」を開催しています。平成21年11月には、新たな拠点としてアメリカナ支部の発会式が行なわれました。ブラジル人を対象に、ポルトガル語での普及を活発に行なっています。

松柏学園・大志万学院の生徒対象と、父兄対象の倫理セミナーを開催。「しきなみ短歌会」「秋津書道会」サンパウロ支苑では活動内容の充実化と、普及拡大を図りました。



## 中華民国倫理研究学会との交流

台湾の倫理運動を支援するために、年間6回、研究員を派遣して講師研修等を実施。平成22年4月10日、「第23回倫理文化講演会」（テーマ「輝いて生きる」参加者300名）を開催しました。



## 中国社会科学院との交流

中国社会科学院をはじめ、中国倫理学会との学術交流を推進。

また浙江工商大学日本文化研究所との交流により、日中相互の文化の理解を深めました。

倫理研究所中国事務所を拠点に、倫理普及の調査研究に努めつつ、中国語版ホームページを通じて活動状況の広報・純粋倫理の浸透を促進しました。

# 教育・研修

富士山麓に広がる自然豊かな施設を活用し、今年度より、「資格セミナー」から「生活倫理セミナー」へ改称し、「基本講座」「生活倫理相談士講座」「リフレッシュセミナー」などを開催しました。その他、各種セミナー講座等の受講者を含めた総数は、6,936 名となりました。



## 青少年教育

小学生と保護者を対象とした「親子自然教室」（平成 22 年 8 月 6 日～8 月 8 日）を実施。小学生は「ファイブアクト」、保護者は「親の倫理」のカリキュラムを設定しました。親子合同で富士山トレッキングを行なったほか、実習を通じて感謝の自覚を深めました。

また、富士登山を取り入れた「中学生・高校生セミナー」（平成 22 年 8 月 10 日～8 月 13 日）を開催。講義や実習を通して、人と協力し助け合う喜びや感動などを体験し、さらに進路や希望、友情などについて、楽しく有意義に学びました。



## 生活倫理セミナー

「生活倫理相談士講座」を 10 組実施し、講座と実習によって生活倫理相談士としてのスキルアップを図りました。また、同認定試験の合格者を対象とした「生活倫理相談士認定講座」を 1 組実施。会員を対象とした生活倫理セミナーは、「生活倫理相談士養成講座」「基本講座」「リフレッシュセミナー」を 25 組併催。全国の会員が一堂に会する利点を活かし、相互研鑽の時間も設けました。本年度より、「基本講座」は全て富士高原研修所で行ないました。

## 企業倫理セミナー

経営者倫理セミナーは、恩意識を深める講座を中心に、受講者がお互いの実践力を引き出し、社内で率先垂範できるよう、意識改革を目指しました。

幹部社員・一般社員倫理セミナーでは、職場朝礼の改善や、恩意識の深化を目指した講座と実習を展開しました。新入社員セミナーでは、社員としての自覚を深め、社会人として即戦力となるポイントを各講座や実習によって体得しました。





# 出版活動

## 定期刊行物の編集と発行

### 月刊誌『新世』

通巻 744 号～755 号

【発行部数：2,495,460 部】

生涯学習総合誌として、喫緊の家庭問題に解決策を提示すると共に、高齢者から子育て世代に至る広範な読者層に純粋倫理をアピールしました。

#### \*特集テーマ

「親切入門」「顔」「即行生活！一気づいたらすぐする」「やり直す勇氣」「日常生活と姿勢の話」「土と泥と私たち」「お父さんの出番」「少食に活路あり！一空腹感のすすめ」「楽しくやろう嫁姑」「ゆるむ・ゆるめる」

### 月刊誌『倫理』

第 680 号～第 691 号

【発行部数：164,050 部】

純粋倫理の理論的・実証的研究ならびに内外倫理思想に関する諸論考を掲載し、混迷する現代の精神文化の研究を深めました。特別企画として、「第 19 回倫理研究フォーラム」(683 号)を掲載しました。

### 月刊誌『職場の教養』

通巻 405 号～416 号

【発行部数：20,530,000 部】

多岐にわたる話題・事例を題材に、職場人であるための行動指針を提供しました。朝礼で自分の考えを自分の言葉で表現するトレーニングの一助となるよう、理解しやすい文章表現に留意して編集しました。

### 月刊誌『しきなみ』

通巻 762 号～773 号

【発行部数：80,270 部】

短歌を通して純粋倫理の体得を目指す会員の毎月の作品発表の場として、出詠者数日本一

の短歌誌の名に恥じぬよう、充実した誌面づくりに努めました。なお 771 号では「第 5 回しきなみ子ども短歌コンクール」表彰式の特集を組み、773 号では「第 14 回しきなみ賞・しきなみ新人賞」の入選作品を発表しました。

### 月刊誌『秋津書道』

通巻 680 号～691 号

【発行部数：61,700 部】

丸山敏雄先生の書を学ぶ会員の相互研鑽の場として、初心者から上級者まで各々の書境向上に資する課題を提供。「秋津書道体験記」も好評で、書道による純粋倫理の体得を読者に印象づけることができました。683 号に「第 3 回秋津賞・秋津こども賞」の入選者を発表。684～686 号に入選作品の写真を掲載しました。

### 隔月刊誌『倫理ネットワーク』

通巻 80 号～85 号

【発行部数：494,000 部】

倫理法人会の活動情報誌として、会員の経営体験やエッセイの他、法人局研究員による連載を掲載。会員が普及活動等に高い意識を維持できるよう、活力ある誌面構成に努めました。

### 年刊誌『倫理研究所紀要』

第 19 号【発行部数：3,650 部】

内外の倫理思想ならびに精神文化に関する学術論文、および純粋倫理の理論的・実証的研究論文で構成しました。

### 平成 21 年度『年次報告』

2008～2009

【発行部数：23,000 部】

「丸山竹秋会長没後 10 年記

念大会」、文部科学省後援「第 27 回地球倫理フォーラム」等、平成 21 年度の主要行事・事業を始め、各部門の活動や実績を写真や図表を多用して紹介。倫理活動の 1 年を包括する年刊誌です。

### 機関紙『倫研新報』

通巻 626 号～637 号

【発行部数：1,429,400 部】

平成 22 年度基本方針「連帯を強化し、自他の救済力を高める」のもと、行事および会員の活動状況を掲載しました。

家庭倫理の会関係は、倫理普及を強力に推進している各地の活動を報告。倫理法人会関係は「日本創生」のスローガンを掲げ、10 万社に向けて普及活動に努める全国の倫理法人会の開設、設立、目標達成式などの記事を掲載しました。

### 単行本の新刊刊行

#### ① PHP 研究所刊

『生きる道』 丸山竹秋著

#### ② 新世書房刊

『道は近きにありー日本創生への道Ⅲー』 丸山敏秋著

『殉難の歌』 山口健次編著

『ありがとうと伝えたい』

倫理研究所監修  
『幸福へのブレイクスルーー病気がくれた贈り物Ⅱー』 田中範孝著  
『万人幸福の葉』(中・小判)／『人類の朝光』装丁全面改訂版

#### ③ 倫理研究所刊

『あなたも私も継承者』

(海野裕監修・文 研究局編)

『悲嘆からの贈りもの』

(倫理研究所グループワーク研究チーム)

『いのちの扉の向こう側』

(海野裕監修・文 研究局編)

『純粋倫理と科学』 丸山敏秋著

### ウェブ・サイト

#### 『倫理研究所ホームページ』

月間平均アクセス数 78,000 件。諸行事の告知や報告の他、各コンテンツの迅速かつ定期的な更新に努めました。また、平成 23 年度のリニューアルに向けて企画を進めました。

#### 『Sun Power Web』

月平均アクセス数 14,505 件(一般公開 6,243 件、会員専用 8,262 件)。青年期の生き方の指針を示す「青春応援歌」をはじめ、青年活動に役立つ情報を盛り込み、各コンテンツの充実と定期更新に努めました。

# 研究の充実

「内外倫理思想ならびに精神文化の研究」を主眼とした「純粋倫理の総合的研究」の成果を、「第20回倫理研究フォーラム」、月刊誌『倫理』、年刊誌『倫理研究所紀要』、所内研究発表会等にて発表しました。現代社会に生起する諸問題の改善・解決および時代の要請に応える新しい徳目の研究に取り組んだほか、所外研究者および学会との交流を深め、純粋倫理の基礎的研究および倫理体験の検証を推進しました。

## 第20回 倫理研究フォーラム

研究成果の一端を年2回にわたり一般公開しました。今年度は、メインテーマを「いのちをつなぐ」として、日本人の死生観に関する意識調査、家の継承問題、子育て問題等、生命を受け継いでいくということを、日常生活に則して多角的に検証、発信することを目的に開催しました。

| 開催日        | 開催地      | 参加者数 |
|------------|----------|------|
| 平成22年2月19日 | 倫理文化センター | 197名 |
| 平成22年8月7日  | 倫理文化センター | 255名 |
| 合 計        |          | 452名 |

【テーマ①】「いのちをつなぐー生と死のあわいにみえるものー」  
【公 演】下掛宝生流能楽師・安田登氏、能楽森田流笛方・槻宅聡氏による講演と能  
【研究発表Ⅰ】4,000名超の調査データをもとに、現代日本人の死生観について報告〔海野裕〕  
【講 演】死生を超えたいのちのつながりの重要性について訴え、日常生活における実践等を紹介〔田中範孝〕

【テーマ②】「いのちをつなぐーあなたも私も継承者ー」  
【研究発表Ⅰ】「育児を通じて『いのち』のつながりを考える」をテーマに、社会全体で子育てを支援することが必要であると報告〔松本亜紀〕  
【研究発表Ⅱ】「高齢者の介護の実証的研究ー家族の理解と支援により改善が見られた場合」をテーマに、介護の過程に見られる「介護者の倫理」とその成果を報告〔伊勢田豊〕  
【講 演】「継承はいのちのバトンリレーーあなたも私も継承者」をテーマに、親祖先につながる実践のポイントを解説〔田中範孝〕



月刊誌『倫理』



年刊誌『倫理研究所紀要』

## 研究の方向と重点

### 倫理思想の探求

| 「倫理文化学」の構築を目指す内外の倫理思想の研究に取り組みました。 |
|-----------------------------------|
| 「倫理文化学の構築に向けた研究」                  |
| 「現代における霊性の問題と倫理との関わりを探る」          |
| 「日本人の伝統的世界観と生き方の研究」               |
| 「わが国における天皇の存在意義について」              |
| 「祖先崇拝のもつ現代的意義」                    |
| 「現代社会における“無意識”と“影”の問題を掘り下げる研究」    |
| 「伝統の検討と再評価の可能性を探る」                |
| 「東洋倫理思想における『欲望』について」              |
| 「日本の婚姻倫理思想史の研究」                   |

### 倫理現象の実証・調査

| 日常生活をはじめ、人間活動の多様な文化のフィールドに見る倫理の分類・調査・研究に取り組みました。 |
|--------------------------------------------------|
| 「倫理に関する日本人の各種意識調査（大規模調査）」                        |
| 「倫理体験細密調査」                                       |
| 「7つの原理研究」                                        |
| 「無形文化遺産研究の中の日本文化」                                |
| 「『親』役割の獲得における産育儀礼の現代的意義と可能性」                     |
| 「日本の巫俗と祖先崇拝についての研究」                              |
| 「丸山敏雄の人間像と生涯事績の研究」                               |
| 「倫理経営の実証的研究」                                     |



現代的問題の解明・探求

|                                                 |
|-------------------------------------------------|
| 現代社会に生起する諸問題の改善・解決および時代の要請に応える新しい徳目の研究に取り組みました。 |
| 「利他的行為の背景を探る」                                   |
| 「結婚・夫婦問題の研究」                                    |
| 「『万人幸福の栞』の研究」                                   |

研究論文テーマ

『倫理研究所紀要』第19号：掲載論文

|                       |               |
|-----------------------|---------------|
| ●日本人とユダヤ人の文化的役割       | ベン・アミー・シロニー   |
| ●「いのち」と「かたち」をめぐる一考察   | 丸山敏秋          |
| ●影と倫理（一）              | 高橋 徹          |
| ●無形文化遺産としての「食」        | ボルテール・ガルセス・カン |
| ●産育に関する世代間伝承の実態と課題    | 松本亜紀          |
| ●李退溪思想と理想的な指導者像       | 嚴 錫仁          |
| ●伝統医学の特質と現代的意義に関する一考察 | 越智秀一          |
| ●自尊の倫理                | 野中寛治          |
| ●日本の祖先崇拝の由来を探る        | 御所園正信         |
| ●「純粋倫理」の実践事例の研究       | 三浦貴史          |
| ●スピリチュアリティの覚醒を求めて     | 田中範孝          |
| ●進化ゲーム論の考え方           | 内田智士          |
| ●中国における日本思想史研究と私      | 龔 穎           |
| ●八丈島巫者一族と「病気」         | 土屋 久          |
| ●Distance             | 海野 裕          |

『倫理』第680号～691号：主要掲載論文

【巻頭論文「倫理文化学ノート」】

|                   |      |
|-------------------|------|
| ●①倫理現象の考察         | 丸山敏秋 |
| ●②グローバル資本主義の破綻    | 〃    |
| ●③お金の何が問題なのか      | 〃    |
| ●④お金についてさらに問う     | 〃    |
| ●⑤お金と心のありよう       | 〃    |
| ●⑥純粋倫理における「金銭の倫理」 | 〃    |

【巻頭論文「國體と倫理の考察」】

|                 |      |
|-----------------|------|
| ●①丸山敏雄と「天皇制の研究」 | 丸山敏秋 |
| ●②国民道徳の形成と展開    | 〃    |
| ●③神話批判と皇室擁護     | 〃    |
| ●④國體思想をめぐる対立と相克 | 〃    |

【内外倫理思想の研究に関する論文】

|                          |      |
|--------------------------|------|
| ●社会的プロダクトとしての倫理          | 海野 裕 |
| ●日本の「個人化」のモーメントとどう向き合うか  | 〃    |
| ●G・I・グルジェフの語る「外皮」        | 高橋 徹 |
| ●ウィルヘルム・ライヒの語る「硬直化した鎧」   | 〃    |
| ●生と死をめぐる話Ⅰ               | 土屋 久 |
| ●生と死をめぐる話Ⅱ               | 〃    |
| ●〈親子であること〉の倫理的自覚         | 嚴 錫仁 |
| ●〈親であること〉・〈子であること〉の倫理的義務 | 〃    |
| ●白洲正子の「自分づくり」            | 越智秀一 |

|                      |               |
|----------------------|---------------|
| ●白洲正子と日本的「道」         | 越智秀一          |
| ●食の文化人類学的考察          | ボルテール・ガルセス・カン |
| ●現代中国における性倫理の基本原則（上） | 龔 穎           |

【丸山敏雄研究「入魂の手紙・敏雄先生のぬくもり」】

|                        |      |
|------------------------|------|
| ●渡邊末雄氏への手紙（四）～（六）      | 稲田博己 |
| ●小田島藤蔵・峯子夫妻への手紙（一）～（七） | 〃    |
| ●石毛英三郎氏への手紙（一）         | 〃    |

【純粋倫理の理論的・実証的研究に関する研究レポート】

|                     |       |
|---------------------|-------|
| ●集団規範の根拠についての一考察    | 三浦貴史  |
| ●夫の女性問題を解決した妻の実践    | 中西康成  |
| ●母親の実践で、息子のアトピーが治った | 森田正廣  |
| ●心の介護で姑の認知症が軽減      | 伊勢田豊  |
| ●祖先崇拝の慣習から何を学ぶか     | 御所園正信 |
| ●結婚準備教育と純粋倫理        | 小川太郎  |
| ●「倫理体験」へのアプローチ      | 三浦貴史  |
| ●清明心の起源についての一考察     | 野中寛治  |

【丸山敏雄研究】

|                  |      |
|------------------|------|
| ●丸山敏雄の壮年期の書風の変遷  | 島田光男 |
| ●苦難観確立前後の丸山敏雄の短歌 | 岡田 進 |

教育資料の整備

倫理体験をはじめ、各種の倫理情報を収集・分類・整理・保存すると共に、研究・教育・普及・出版の各部門に情報を提供しました。家庭倫理講演会をはじめ、諸行事で発表された「実践報告」から、原稿900篇（実践報告カード293篇を含む）、倫理経営講演会の事業体験録音テープ132本を収集。収集した倫理体験は分類・整理を加え、検索システムに入力しました。

図書室

倫理運動に必要な文献、情報の収集とともに、所内外の利用者に対して情報の提供とサービスに努めました。

|             |                                                                                   |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 図書展示コーナー    | 講演会参考資料、逐次刊行物・倫理研究所新刊図書とその関連資料、研究活動通信関連資料、地球倫理推進賞受賞団体の関連資料、栞第一条関連図書、各文学賞受賞作品、話題の本 |
| 図書・資料貸出     | 1,366点／図書1,221点・視聴覚145点<br>遠方の利用者には郵送による貸出しを行ないました。                               |
| レファレンス・サービス | 所内外のレファレンス依頼に対応。総数367件。                                                           |

# 倫理研究所の組織概要と沿革

私たち一人ひとりが、和やかな家庭、朗らかで活力のある職場、明るい地域社会を築くことこそ、美しく平和な社会を建設する第一歩であると考え、人間生活のすじみちを学び、日々の実践に努める人の連帯の輪を広げるべく、様々な活動を展開しています。

倫理研究所は文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体です。社団法人の許可を受けて〈研究〉〈教育〉〈出版〉〈普及〉の諸活動を行なっているほか、文化芸術活動や環境美化活動にも力を入れています。会員は、倫理研究所の趣旨に賛同する全国各地の個人および法人です。

創立は昭和20年9月3日。戦争に敗れ、世情が混乱し、道義が退廃した国の姿を憂えて、道義の確立をもって日本を再建したいと創立者・丸山敏雄が論文の筆を執り、「倫理運動」を創始した日です。

永年にわたる研究から発見した生活法則を「純粹倫理」と名づけ、その後、多くの共鳴者、協力者を得て、昭和21年に研究機関として「新世文化研究所」を設立。昭和22年には倫理の普及を推進する組織として「新世会」を設立。翌年には社団法人の許可を受け、昭和26年に「社団法人倫理研究所」と改称しました。

その後、倫理運動は個人会員組織を「家庭倫理の会」、法人会員組織を「倫理法人会」と称して活動しています。

## 組織概要

名 称 社団法人倫理研究所

代 表 者 理事長 丸山敏秋

所 在 地 〒101-8385 東京都千代田区三崎町3-1-10

所 管 官 庁 文部科学省生涯学習政策局

創立年月日 昭和20年9月3日

昭和23年10月30日に社団法人設立許可

## 文部科学省所管証明



倫理研究所は、文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体です。

## 純粹倫理とは

純粹倫理は日本の精神文化や歴史、宗教等の研究を土台にして樹立された《人間生活の法則＝すじみち》です。実生活とひと時も離れることのない生活のルールといえます。人間を幸福に導き、平和で豊かな社会を築く基本の《くらしみち》であり、生きた生活法則です。それは日常生活のあらゆる場面において、だれもが実験実証できます。《明朗＝ほがらか》、《愛和＝なかよく》、《喜働＝よろこんではたらく》、これがその実践であり、《純情＝すなおな心》になることが純粹倫理の核心です。

朝、目が覚めたらサッと起きること。誰にでも明るく朗らかに挨拶をすること。返事、後始末をきちんとすること。いずれも日常生活の身近な、あたりまえのことです。このあたりまえのことを継続することで、生活を改善し、家庭や職場をはじめとする人間関係を豊かなものにしようというのが、倫理運動の眼目です。平凡な実践の中にある非凡な真理を知り、日々の実践に努めることがどんなに素晴らしい結果をもたらすか、多くの体験が実証しています。そんな人間向上の道、生活向上の規範が純粹倫理なのです。



## 倫理研究所の施設

### 倫理文化センター

東京都千代田区三崎町3-1-10

倫理運動推進の本部機能を有する倫理文化センター。社会教育施設としての機能を充実させ、本部職員が業務を行なうほか、ホールや会議室を利用して、国際会議や研修会も行なわれます。



### 教育センター

静岡県御殿場市印野1383-85

センター内には「富士高原研修所」のほか、「富士倫理学苑」「丸山敏雄記念館」「富士万葉植物園」があります。

入場無料で一般公開されている「富士万葉植物園」には約1ヘクタールの庭地に万葉植物等が多数植樹され、平成22年度には、会員・一般見学者を含め7,119名が来園しました。



### 天和会館

福岡県豊前市大字天和392

創始者・丸山敏雄の生家(平成19年復元)に隣接した会館(平成20年改築)です。伝統建築の粋を集めた家屋は、日本の原風景を感じさせます。毎年大勢の人が訪れるなど、豊前市の新たな観光名所としても注目を集めています。



### 倫理資料館

東京都武蔵野市境5-6-25

創立者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか倫理運動史料や記録などの一般公開を行なっています。

『丸山敏雄全集』に基づき、遺品管理データベースの構築を進めると共に、遺墨の修復を実施し、更なる内容の充実を目指しています。



## 沿革

- 1945(昭和20)年 丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿、倫理運動を創始。
- 1946(昭和21)年 「新世文化研究所」(のちの倫理研究所)設立(初代所長、丸山敏雄)。「新世会」設立。月刊誌『文化と家庭』(現在の『新世』)発刊。
- 1948(昭和23)年 「新世会」が社団法人の許可を受ける。
- 1949(昭和24)年 「朝の集い」開始(上野、神田、銀座、市川)。
- 1951(昭和26)年 「新世会」を「社団法人倫理研究所」と改称。丸山敏雄逝去。丸山竹秋、理事長に就任。
- 1966(昭和41)年 富士高原研修所竣工。
- 1967(昭和42)年 中日支所設立、支所体制がスタート。
- 1973(昭和48)年 アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
- 1980(昭和55)年 千葉県に第1号の倫理法人会発足。
- 1985(昭和60)年 創立40周年記念大会にて丸山竹秋理事長が「地球倫理の推進」を提唱。
- 1986(昭和61)年 中華民国(台湾台中市)に拠点開設。
- 1987(昭和62)年 第1回日中実践倫理学討論会を北京にて開催。
- 1989(平成元年)年 「朝の集い」2,000会場突破。丸山竹秋理事長、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。第1回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア」に参加(以後、毎年参加)。
- 1990(平成2年)年 倫理法人会10,000社達成記念大会開催。
- 1992(平成4年)年 丸山敏雄生誕100年記念大会を東京ドームで開催。
- 1995(平成7年)年 創立50周年大会を東京と沖縄で同時開催。丸山竹秋理事長が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表。
- 1996(平成8年)年 丸山敏秋、理事長に就任。
- 1998(平成10年)年 第1回地球倫理推進賞贈呈式を開催(以後、毎年)。倫理資料館竣工。
- 1999(平成11年)年 倫理法人会20,000社達成記念大会開催。創立55周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成スタート(以降、毎年派遣)。丸山竹秋逝去。
- 2000(平成12年)年 ブラジルにサンパウロ支部設立。
- 2001(平成13年)年 新富士高原研修所グランドオープン。
- 2002(平成14年)年 創立者没後50年記念大会を全国7カ所で開催。
- 2003(平成15年)年 第1回こども倫理塾大会を開催。
- 2004(平成16年)年 倫理法人会40,000社達成記念大会開催。
- 2005(平成17年)年 「家庭倫理の会」発足。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。創立60周年記念式典、青年フォーラム21全国大会開催。ハワイ支部設立。
- 2006(平成18年)年 創立者生家(復元)竣工。丸山敏雄「書と心」展開催。第1回しきなみ子ども短歌コンクール表彰式を開催(以後、毎年)。
- 2007(平成19年)年 倫理法人会50,000社達成記念大会開催。
- 2008(平成20年)年 第1回日中青年沙漠緑化交流開催(以後、毎年)。
- 2009(平成21年)年 「地球倫理の森」創成10周年記念大会開催。植林30万本達成。丸山竹秋会長没後10年記念大会開催。
- 2010(平成22年)年 創立65周年記念式典開催。



社団法人 倫理研究所

〒101-8385 東京都千代田区三崎町3-1-10 TEL 03-3264-2251/FAX 03-3264-7881

ホームページ <http://www.rinri-jpn.or.jp>

■発行所／社団法人 倫理研究所 ■編集／倫理研究所 広報部 ■発行日／2010.11.1